



知の伝達、
知の継承。

一般社団法人 文華樹

E-MAIL : info@bunkaju.jp

TEL : 050-8880-2387

一般社団法人文華樹

検索

<https://bunkaju.jp>



一般社団法人文華樹
General Incorporated Association Bunkaju



私たちの願い

塾・予備校の現場では、当然のことながらその場に集う多くの人が少なからず受験を意識しています。塾・予備校講師の仕事は受講生が志望校に合格するサポートをすることに尽きるので、まずはそれに向けたコンテンツを提供することが重要な言うまでもないことですが、長い間「受験が当たり前」の世界にいと、忘れてしまいそうになるものがあります。それは、「受験は選択肢の一つにすぎない」という単純な事実です。

高等教育への進学率は上昇し続けていて、昨年時点で80%強にまでなっていますが、それでも「受験が全てではない」というのは紛れもない事実。もちろん、受験生は受験が全てであるかのように感じるのも仕方ない部分がありますが、少しばかり受験まで時間がある非受験学年や、受験を終えた人には、「自分が受験をする意味」に思いを馳せてもらいたいと願っています。私たちの活動を通して、「我々の生きるこの世界にはさまざまな選択肢がある」ということをほんの少しだけでも感じ、それを通して「多様な選択肢の中で、自らの進むべき道を選択する」ということを念頭に、「決断」を自分で下したということの意味を自分で掴んでもらえれば、これ以上ない喜びです。

いわゆる「レールに乗る」のも一つの選択肢、「レールから外れる」のも一つの人生。どちらを選ぶにせよ、隣の芝は青く見えるものです。そして、隣の芝が青く見えるときに「あえて自分の家には庭を作らない」と決意するのも一つの生き方であり、時には並行世界を思い描きながら、「別の人生もあったかもしれない」と考えつつも、自分が選んだ人生を納得できる形で歩んでいくことができるなら、それは非常に大きな意味を持つことだろうと思います。

私たちの活動を通して、青少年が自らの置かれた環境に拘らず、自身の未来を自らの手で切り拓ける社会の実現に一步近づくことができればこれ以上ない喜びです。私たち一般社団法人文華樹はこれからも「教育」を通して自律性を養い、自らの人生を自らの手で切り拓いていくことのできる人材の育成に邁進していきます。

自らの未来を自ら切り開ける社会を実現するために。

先人たちから受け継いできた「良き物」を次なる世代へ継承していくことが私たちの使命です。

今から15年前、学生アルバイト講師として塾の世界に足を踏み入れて以来、数多くの「受験生」と接してきました。その中で出会った一人一人にそれぞれの思いがあり、物語があります。不安や逆境と戦いながら、時には後悔しながら、それでも前を向いて何とか未来を切り開こうと必死になっていた、そんな受験生たちの姿が目に焼きついています。それは活動の中心を予備校の現場に移して以降も変わりません。

叫ばれて久しい教育格差の問題に対して、私教育の世界に身を投じている私たちにも何かできることがあるのではないか、そして伝統文化の衰退、情報格差といった問題にも何かアプローチできることがあるのではないか。そんな思いに賛同してくれたメンバーとともに、独力では困難でも、多くの人々と連携することで成し遂げられるアプローチの仕方があるはずだという信念のもと、2023年3月7日に設立したのが、この一般社団法人文華樹です。

設立以来提供してきました、受験生向けの講義・学習指導やWebメディアEducational Lounge、小論文添削指導サービス「e-Lounge」を中心とした教育サービスにおいてはこれからも、より良いサービスの提供に邁進してまいります。これらに加え、2025年度は新たな事業として「しまくとうば塾 ちむぐくる」をスタートする運びとなりました。衰退しつつあり、消滅の危機に瀕していると言われる伝統文化・伝統工芸の保存と継承に焦点を当て、文化・精神的にも豊かな社会を維持し続けていくことは我々の設立当初からの願いの一つです。こうした新規事業の展開も含めて、私たちはこれからも『教育』を通じて、人々が文化を継承し、自らの未来を自分の手で切り開ける社会を実現する」ための活動に、より一層邁進していく所存です。

成人年齢が引き下げられたことに伴い、早い段階で自らの人生の選択を迫られることになりました。多くの場合において、「何かを選ぶ」ということは、同時に「何かを選ばない」ことを意味しています。より後悔の少ない選択をするためには、手元にある選択肢の多さや見えている世界の広さ、すなわち自分の中にある「判断基準」が大いに越したことはないのではないのでしょうか。私たちはほんの少し先の未来を見据えつつ、新たな価値、そこにあったはずなのに見落とされてきた古くて新しい価値の想像を目指していきたい。そのためにも、従来より広い意味で「教育」ととらえ、「教育」を通してその選択肢を増やし、世界を広げていくサポートをしてまいります。

私たちは『教育』を通じて、人々が文化を継承し、自らの未来を自分の手で切り開ける社会を実現する。」という理念・ビジョンのもとに、私たち自身が先人たちに導いてもらってきた者として、手にしてきた叡智を私たちが次世代へと継承するべく行動すると同時に、継承者としての自らの役割を見失うことなく、常に新たな知を求め続けてまいります。今後とも、私たち一般社団法人文華樹への温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

一般社団法人文華樹

代表理事 羽場雅希



「教育」を通じて、人々が文化を継承し、
自らの未来を自分の手で切り開ける社会を実現する。

Vision

一般社団法人文華樹の理念・ミッション

私たちが理念に掲げる目標は、「教育」を通じて、人々が文化を継承するとともに自らの未来を自分の手で切り開くことのできる社会の実現です。私たちの活動を通して、「我々の生きるこの世界にはさまざまな選択肢がある」ということを実感し、「多様な選択肢の中で、自らの進むべき道を選択する」ということを念頭に、その決断を自分で下した意味を自分で掴んでもらいたい、そう願っています。

私たち一般社団法人文華樹はこれからも、より広い意味での「教育」を通して自律性を養い、自らの人生を自らの手で切り開いていくことのできる人材の育成に邁進していきます。

Mission

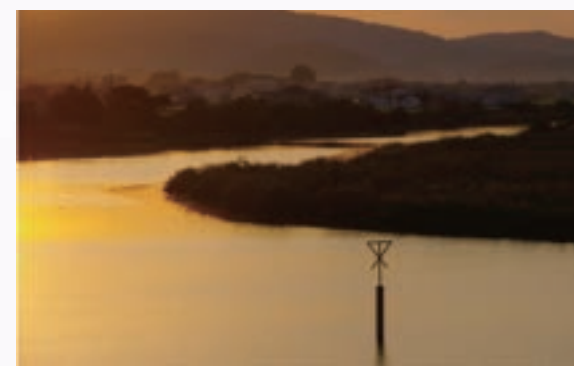
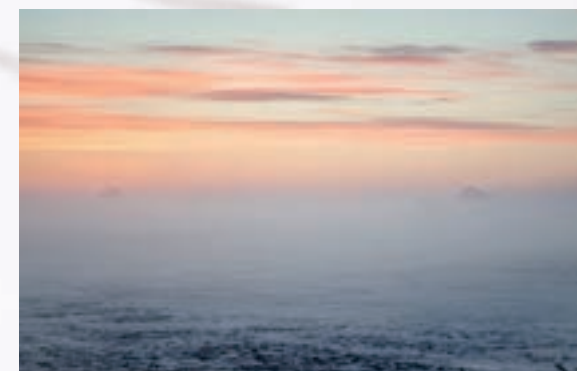


Mission01. 知の伝達、知の継承。

私たちは、青少年たちよりも少しばかり先を生きる者として、多くの受験生を見てきた者として、そして何より私たち自身が先人たちに導いてもらってきた者として、手にしてきた良き物を私たちが次世代へと継承する役割を担うと同時に、知の継承者として自分たちも常に新たな知を継承していく姿勢を持ち続けていきます。

Mission02. 払暁の牽引者となる。

ふつぎょう
払暁とは夜明けのこと。私たちは、次世代を担う青少年たちが自らの未来を自らの手で切り開いていくための淵源となるべく、ほんの少し先の未来を見据えつつ、これまで見落とされてきた古くて新しい価値の発見・深化・創造を目指していきます。



Mission03. 青少年たちの滞標に。

滞標は古来、水深の浅い港や川岸などで船の航路を示す目印となり、また、和歌の中ではよく身の破滅を意味する「身を尽くし」との掛詞として、身を破滅させるほどの激しい恋を表してきました。私たちは、「滞標」のような道標となることを目指しつつ、掛詞としての「身を尽くし」に表れた決意と重なりながらも新しい、さらなる意味を込めることができる存在を目指して邁進していきます。

01.教育格差・情報格差

本人の選択に関わらず、生まれ育った環境や置かれた状況により、受けられる教育の機会や質に差が出てしまう「教育格差」。貧困や家庭環境、周囲の状況、進学について考える機会がないなど、その原因はさまざまです。日本においては特に、在籍する学校によって教育の質に差が生まれてしまう「学校間格差」や、自宅での学習環境や電子機器所有の有無、学習塾への通塾可否などの「家庭環境による格差」にしばしば焦点が当てられています。

世帯の状況別、進学希望の教育段階について「高校まで」と考える理由



出典：こども家庭庁「令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書」

自身が世帯収入や世帯状況を気にして高等教育機関への進学を考慮にいれていない可能性が見て取れます。もちろん、大学（やその他高等教育機関）への進学が全てではないものの、家庭環境さえ許せば進学意志があったにも関わらず、早い段階で進学を断念せざるを得ないと考えている子どもたちがいる可能性は否定できません。

また、学校の授業以外での学習についての調査（等価世帯収入の水準別）では、「塾で勉強する」「家庭教師に教えてもらう」といった外部機関を利用する学習機会は世帯収入が中央値の2分の1未満の世帯では他の世帯と比べて少ない一方、「学校の授業以外で勉強はしない」という回答は他の世帯と比較して高くなっています。塾や家庭教師を利用するためには費用面でのハードルが高いことが考えられるため、ある程度は予想通りの結果だという声もありますが、この状況が続くことで教育格差は広がる一方になることが懸念されます。

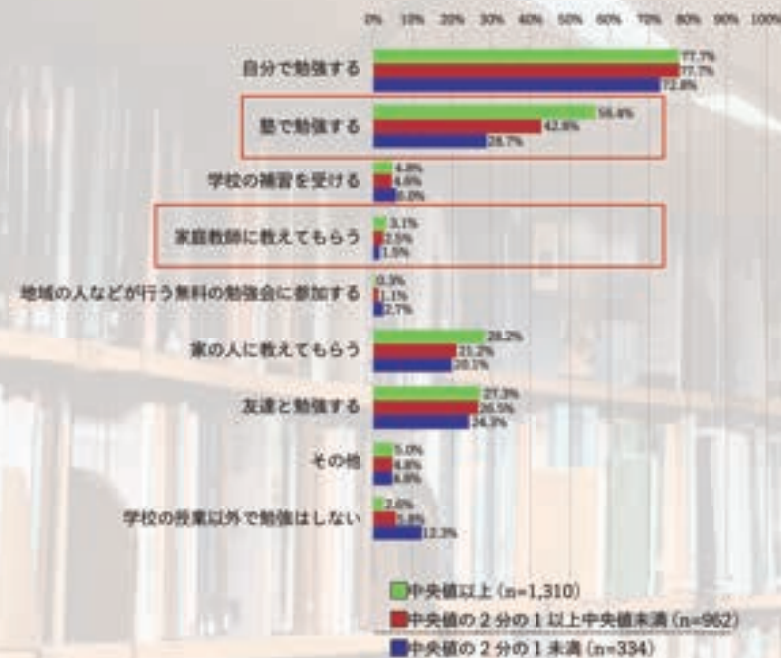
こうした現状に対し、公教育の充実、教員の負担が過大になっている現状の改革が急務であることは言うまでもありませんが、私たちはそれ以外にもさまざまな方法でアプローチしていくことができるのではないかと考えており、「塾」という形式だけでなく、さまざまなアプローチで子ども達が学校以外でも教育に接する機会を創出していく方法を模索していきます。

学校基本調査によると、令和3年の高等教育機関（大学（学部）・短期大学（本科）入学者、高等専門学校4年在学者及び専門学校入学者）への進学率は83.8%で過去最高を記録しました。

一方で、こども家庭庁の調査によれば、希望する教育段階は高校（あるいは中学）まで（高等教育機関への進学を望まない）と回答した中学生の割合は15.1%でした。これを等価世帯収入の水準でみると、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯の子どもは19%、中央値の2分の1未満の世帯の子どもは33.9%です。世帯収入と子どもの進学意識にある程度の相関関係が認められます。

さらに、回答の理由を見てみると、子ども

等価世帯収入の水準別、ふだんの勉強の仕方



出典：こども家庭庁「令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書」

Awareness of the Problem

Awareness of the Problem

02.伝統文化・工芸の衰退

日本には有形・無形の伝統文化が数多く存在しています。それらは長い歴史を通して地域・社会の中で受け継がれ、現代まで伝わってきたものです。世代を超え、日本や地域を特徴付けるものとして欠かせないものとなっており、国内の愛好家のみならず、海外でも高い評価を受けている工芸品・芸能も少なくありません。しかしその一方で、国内における伝統文化の衰退が問題となっているのも紛れもない事実です。

消滅した伝統文化の復興は困難

伝統文化・工芸には専門的な知識やノウハウ、高い技術が要求されることが多いものです。さらにはそれらの知識やノウハウ、技術は、口伝の形で受け継がれてきたものや、職人たちが経験を通して身につけてきたものが多くあり、一度失われた伝統文化・工芸を復興するのは至難の業だと言われています。したがって、私たちはこれらの伝統文化・工芸が失われてしまう前に受け継いでいくことが急務です。

伝統文化・工芸衰退の背景

伝統文化・工芸の衰退に関して、私たちは特に次の2点に危機感を覚えています。

▶ 伝統文化の需要が減少している

伝統文化が衰退している現状にはさまざまな事情が絡んでいますが、その原因の一つが「需要の減少」です。

わたしたちの生きる現代ではライフスタイルが多様化しており、生産コストや価格の高い伝統工芸品の需要が減少しています。伝統文化・工芸の魅力を発信し、需要を創出していくことは急務でしょう。

▶ 従事者の高齢化と後継者・担い手の不足

少子高齢社会の現代では、伝統文化・工芸に従事する人々の高齢化と、後継者・担い手不足が喫緊の課題です。

中でも、伝統工芸士（職人）は高齢の場合が多いこともあり、次世代の担い手を発掘し育成していくことが重要です。とりわけ、長い経験を積むことが欠かせない「職人技」の継承は急務だと言えます。

伝統文化・工芸の魅力に触れる機会を創出する

どんなに優れた文化でも、認知度が低ければその魅力が知られることは残念ながらほとんどありません。私たちは、これまで伝統文化・工芸に触れたことがないという人々や次世代を担う青少年たちが伝統文化・工芸の魅力に触れる機会を創出し、伝統文化・工芸を保存し継承していく方法を模索していきます。

消えゆく方言

地域で受け継がれてきた「方言」も大切な伝統文化の一つです。ところが、近年では「絶滅危惧種の言語（方言）」という問題が注目されています。

平成21年2月に国連教育科学文化機関（UNESCO）が発表した“Atlas of the World's Languages in Danger”（第3版）では、世界では約2,500の言語が消滅の危機にあるとし、日本語の中でも次の8言語が消滅の危機がある言語として掲載されています。

【極めて深刻】アイヌ語

【重大な危機】八重山語、与那国語

【危険】八丈語、奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語

他にも、日本では「東日本大震災からの復興の基本方針」で指摘された東日本大震災の被災地の方言も消滅の危機がある言語として認定されています。これらの方言話者は高齢者であるケースが多く、次世代の担い手の創出が急務となっています。

参考：文化庁「消滅の危機にある言語・方言」（https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kikigengo/index.html）

事業概要

01.Educational Lounge

2018 年 11 月 8 日にオープンした大学受験生・指導者のための Web メディア。「受験生たちの滯標に。」というコンセプトの下、日頃さまざまな場所で受験指導に当たっている現役の塾・予備校講師たちが、それぞれの専門科目の学習法や学習に役立つ解説記事を発信する。「不確かな情報」が氾濫する中で、「本当に信頼できる情報が手に入る場所」の確立を目指します。



Educational Lounge は、2018 年に代表理事の個人事業として開設され、今期より運営母体が私たち一般社団法人文華樹に移りました。開設 6 周年を迎えた今期は新たに 1 名のライター講師を迎え、79 記事を掲載。執筆陣は 28 名（当法人の編集スタッフ除く）、現在公開されている記事数は 663 記事（2024 年 12 月末時点）となりました。

数字でみる Educational Lounge	
執筆者数	28 名
記事本数	663 記事

私たちの関わる「教育」というジャンルに限らず、様々な分野で情報が氾濫する社会となった現代では、Web を通した情報発信に対して懐疑的な視線を向けられることも少なくないように感じるようになってきました。そんな中でも、やはり私たちにできることはただ 1 つ、「信頼に値する情報を発信し続ける」ことだけであると考えています。

Educational Lounge の当初から変わらぬ「受験生たちの滯標に。」という運営理念に違ふことなく、この時代に生きる受験生たちにとっての滯標になれるよう励んでまいります。これからも Educational Lounge は受験生たちに良質な情報を提供し続けるべく、受験生のニーズを的確に把握し、品質管理を徹底するとともに、UI/UX の向上にも取り組んでいきます。

PICK UP

日々変化し続ける社会に生きる私たちの前には様々な選択肢が用意され、様々な可能性が開かれている。そんな「可能性」に生きる私たちは、無意識のうちに安直な選択をしてしまいがちなもの。受験生を応援するサイトだからこそ、この社会の中で「受験」を選択することの意味を問い直したい――。

そうした思いから、興味深いストーリーを持つ方に対するインタビューを通して多様な生き方を提示する「Educational Lounge × Career Compass」。第 6 回では、沖縄県北谷町を中心に、子どもの居場所支援の活動をしている一般社団法人（当時：任意団体）「Cha-Ashibi」のみなさんに普段の活動や沖縄、子ども達に対する思いをお聞きしました。



※一般社団法人文華樹と一般社団法人 Cha-Ashibi は 2024 年 8 月 29 日に包括的業務提携契約を締結しました。

02.授業・研修・講演会・教材作成

当法人代表理事が予備校講師として活動してきた中で広がっていった講師のネットワークや知見を最大限活用しながら、各種授業・研修・講演会の企画・講師として講座の提供や教材作成、カリキュラムのご提案・策定を行います。

私たち一般社団法人文華樹の会員の多くが塾・予備校で長年教壇に立って受験指導を行ってきました。そのため、進学に向けた学習支援の授業は私たちの最も得意とするところであり、これまで講師として培ってきたデータやノウハウに基づき、中学入試・高校入試・大学入試と、幅広い対象に対応した講義の提供が可能です。高等学校や中学校への出張講義も対応しています。

また、ご要望に応じて各種企業研修や講演会、オンラインセミナーにも対応できますので、ぜひお気軽にご相談ください。

03.オンライン個別指導

塾・予備校・学校現場の第一線で活動している講師陣が、中学入試・高校入試・大学入試と、幅広い対象に対応したハイブリッド型のオンライン指導を提供します。通年での指導のみならず、長期入院などに伴い普段通っていた塾・予備校での指導が受けられなくなった際のつなぎとしてご活用いただくことも可能です。

ご希望に応じて対面型指導・Web 会議ツールを用いたオンライン指導・映像コンテンツの提供とフォローアップを行います。集団指導・個別指導の両方に対応可能です。



＋ フォローアップ体制

映像授業・オンライン個別指導・対面型授業の全てに授業外でのフォローアップ体制も整え、学習管理やプランニングなど、学習者が無理なく学習していくためのサポートを徹底します。

04.小論文添削指導 e-Lounge

近年、大学入試における小論文や志望理由書の需要は高まっています。
一方、学校・塾の先生方が日常業務に加えて、小論文・志望理由書の添削指導を行うとなるとなかなか手が回らないというケースも耳にします。
e-Lounge ではそうした悩みを解決すべく、「映像授業+添削指導」を通して現場のニーズに応えた効果的な小論文・志望理由書指導を実現します。

●答案添削+特典映像で小論文対策を万全なものに

本サービスでは、当法人が生徒様と直接やり取りするのではなく、動画や答案のやり取りに指導者の方を挟むことで、生徒様の現状や取り組んでいる課題を把握しつつ効果的な指導を行うことが可能になります。



- 特典①** 小論文基礎講義動画
小論文の基礎となる「考え方」「書き方」を学べる動画講義（全10回）
- 特典②** 小論文基礎講義動画スライド PDF
基礎講義動画で使ったスライドと例題の PDF をダウンロードしていただけます。

●特典：小論文基礎講義

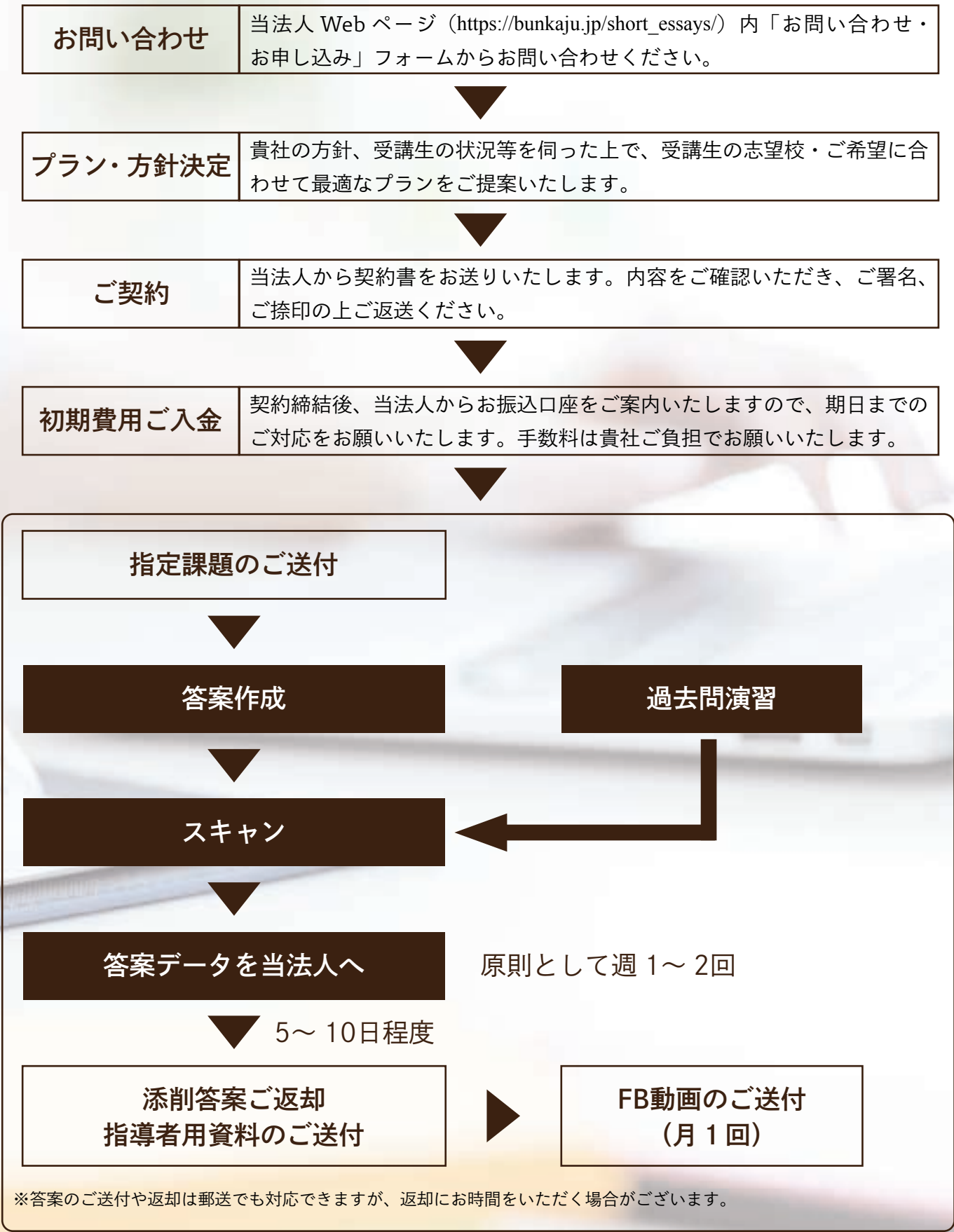


全10回の動画講義を通して、小論文を書くために必要な考え方・技術を習得。それぞれの動画は各40分程度で、何とか忙しい現代の受験生が無理なく着実にステップアップしていくためのカリキュラムになっています。

【カリキュラム】
小論文学習ガイダンス/小論文を書くために必要な技術と流れ/読解①：設問・課題文の読解/読解②：データの読解/思考①：小論文で求められる思考力と説得力/思考②：論理的思考・論点を考える/思考③：新規性のある主張を考える/表現①：小論文を書くための基礎知識/表現②：小論文の構成・構成メモ/表現③：論理的な文章（各40分程度）

※特典の不定多数に向けた再配布はご遠慮いただいておりますが、貴社内では有償・無償問わずご自由にご活用いただけます。

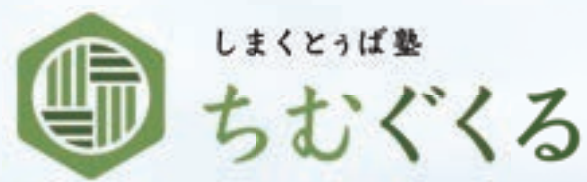
●サービスの流れ



●費用

基本料金（月末時点の受講生数×添削回数別プラン）+オプション料金（お申し込み分）
詳細は別紙料金表をご確認ください。

05.しまくとうば塾 ちむぐくる



初級沖縄語講座（「しまくとうば講座」）を毎月1回、那覇市内の会場で開催（オンラインで同時配信）します。後日映像でも視聴可能であるため、1期につき全10回の講座全てには参加できないという方でもその内容を視聴した上で次回講座から参加することができます。

●「ちむぐくる」って何？

「ちむ」「くくる」ともに「心」の意味。「ちむぐくる」は「心、精神」を強めた表現で、主に「真心」を表します。私たちは、「しまくとうば塾 ちむぐくる」という名に、しまくとうばを心を込めて伝えていくのみならず、しまくとうばの中に秘められた「心」を受け継いでいくという決意を込めました。しまくとうばでしか伝わらない感覚、標準語にすることで失われる感覚。しまくとうばの中に表れる優しさや信仰、しまくとうばを使うことによって届けられる「良さ」を伝承していきます。

●消滅の危機にある言語

平成21年2月に国連教育科学文化機関（UNESCO）が発表した「Atlas of the World's Languages in Danger」（第3版）では、世界では約2,500の言語が消滅の危機にあるとし、日本語の中でも以下の地図で示した8言語が消滅の危機がある言語として掲載されています。

日本では他にも「東日本大震災からの復興の基本方針」で指摘された東日本大震災の被災地の方言も消滅の危機がある言語として認定されました。これらの方言話者は高齢者であるケースが多く、次世代の担い手の創出が急務となっています。



（参照：ユネスコ「Atlas of the World's Languages in Danger」を基に文化庁が作成）

●「うちなーぐち」と「しまくとうば」

沖縄のことばを表す語として「うちなーぐち」がありますが、沖縄のことばには地域によって大きな違いが存在しており、言語学的にはそれぞれ別の言語として識別すべきであるとも言われます。

ちむぐくるではそれら沖縄のことばを「うちなーぐち」として一括りにして考えるのではなく、沖縄県も採用している「しまくとうば」という語を用いて、島ごとのことばとして認識し、それぞれの言語に焦点を当てて理解・継承していくことを目指します。

目的

沖縄語を中心として、消滅の危機にあるとされる沖縄のことばの保存と継承に焦点を当て、人々の関心と理解を深めつつ、方言や伝統文化の喪失を食い止める。

概要

毎月1回の沖縄語講座（那覇・オンライン） × Webメディアによる情報発信 × （不定期）沖縄の文化・歴史イベント開催

将来的なビジョン

参加者には学んだ沖縄語に触れ続けてもらいながら、自分に流れる伝統を感じ取り、沖縄の新たな魅力を発見・伝達してほしい。本プロジェクトをモデルケースとして沖縄県内の他の地域の言葉、さらには全国に存在する消滅の危機にある言語や文化を視野に入れた展開を目指す。

●一般社団法人文華樹が沖縄で活動する理由

私たち一般社団法人文華樹の理念のベースには、「自分たちが自然と与えられ、受け継いできた『良き物』を、次なる世代に受け継いでいく」という価値観があり、文化を継承することはその根幹をなすものであると考えています。「ちむぐくる」はそうした私たちの理念に大きく関わる事業であるという認識のもと起案しました。

最初の活動地に沖縄を選んだのは、2023年の夏に当法人代表が沖縄を訪れた際に沖縄出身・在住YouTuberの「沖縄サムライ」MG氏から語られた次の言葉に心を動かされたのが一番の理由です。

「子どもたちが方言を徐々に徐々に知らなくなっている。今こそ方言塾ってあってもいいと思うし、今しかない。一大事だよ。自分たちは方言を聞けるけど、上手くは喋れないわけよ。

方言の中に沖縄の良さが詰まっているし、方言でしか伝わらない感覚があるわけよ。その中にちょっとした優しさがあったり、信仰があったり。それを使うことによって届けられる良さがあるわけよ。方言がなくなってしまうと、残さなきゃいけないなど。

方言塾やりたいね。俺たちが勉強になるぐらいな。沖縄の人が勉強したくなるような「しまくとうば」。今しかないよ。喋れる人がなくなっちゃったら聞き取りもできなくなってしまう。失われてしまったら終了。残さなきゃいけない。」

私たちの活動拠点である東京都や創立の地である千葉県でも失われゆく言語・文化は確かに存在しているため、それらの保全活動を行っていくことの重要性は認識しています。とはいえ、まずは私たちと協働してくださる方々のお力をお借りしながら活動できる沖縄から、その第一歩を踏み出していきたいと考えています。

組織概要

名称	一般社団法人文華樹
英名	General Incorporated Association Bunkaju
住所	東京都千代田区神田佐久間町一丁目 8 番 4 号 アルテール秋葉原 708
電話番号	050-8880-2387
設立年月日	2023 年 3 月 7 日
代表理事	羽場雅希
理事	上原ノーマン浩 白石曉識 高橋佳佑



貸借対照表

【資産の部】		【負債の部】	
流動資産		流動負債	
現金及び預金	47,814	未払金	523,271
売掛金	48,426	未払法人税等	188,200
役員貸付金	889,924	未払消費税等	156,400
流動資産合計	986,164	預り金	495,052
固定資産		流動負債合計	1,362,923
有形固定資産		負債の部合計	1,362,923
機械装置	129,985	【純資産の部】	
有形固定資産合計	129,985	資本	
固定資産合計	129,985	利益剰余金	
繰延資産		その他利益剰余金	
創立費	167,132	繰越利益剰余金	-79,642
繰延資産合計	167,132	その他利益剰余金合計	-79,642
資産の部合計	1,283,281	利益剰余金合計	-79,642
		資本合計	-79,642
		純資産の部合計	-79,642
		負債及び純資産の部合計	1,283,281



私たちは「教育」を通して青少年たちに多様な世界を伝え、人生の選択肢を増やし、見える世界を広げていくサポートをすることで、出自や現状によらず人々が文化・教養を継承する機会の創出を目指して活動しています。企業の皆様と協働することによって、より大きな社会的インパクトを生み、社会を動かすことが可能になると考えています。私たちの取り組みにご賛同いただける 1 社でも多くの企業様のご支援を心よりお待ちしております。

寄付によるご支援

継続寄付

当法人の目的及び事業内容に賛同し、運営を継続的に支えて下さる企業様を募集しております。 継続寄付は、月 1 万円～お願いしております。
※なお、継続中止はメールにて随時承っております。

継続してご寄付いただける企業様への特典

▶ 当法人ホームページに企業名を掲載いたします（希望企業様）

▶ 活動報告をお送りいたします（年 4 回）

▶ ご要望に応じて様々なプログラムを実施いたします

単発寄付 任意のタイミングでのご寄付

お好きなタイミングでお好きな額をご寄付いただけます。
領収書やご寄付の用途指定のご要望がございましたら、入金後に support@bunkaju.jp までご連絡ください。

その他ご支援のお願い

会員募集 会員になる

当法人の目的、事業にご賛同くださり、ともに活動して下さる企業・団体様を募集しています。企業・団体様の会費は以下の通りとなっています。

法人賛助会員	入会金：5,000 円 年会費：一口 240,000 円
--------	------------------------------

ご検討いただけたる企業・団体様やご不明点がある場合はお気軽にお問い合わせください。

協働 協業・協働して活動する

私たちと協働して、様々な形で活動を盛り上げて下さる企業様を募集しております。連携内容に関しては、ご相談の中でご対応していきたいと考えておりますので、まずはお気軽にお問い合わせください。

メンバーの声

科学の発展によって世の中はますます便利になり、私たちの生活は大きく変わりました。多様な SNS が登場し動画の共有が一般的になったり、ストリーミングサービスが普及しオンデマンドで映画やテレビ番組の視聴が可能になったりしています。どれも「こうなったらいいな」という理想が現実になったものです。理想を現実にするための一つの手段として科学があります。

科学は直観の上に実験や証明を重ねて体系化されたものです。社会科学や人文科学、自然科学など様々な科学がありますが、これには定義や基礎事項の理解が必要不可欠でしょう。その上で実現可能なことが徐々に増えていくのではないのでしょうか。大学という場所はあらゆる科学を学ぶ入り口またはきっかけだと思います。大学がすべてとは思っていませんが、私は大学進学を目指す人々のお手伝いをしたいと考えています。大学進学は、人生の大きなターニングポイントであり、将来の夢や目標を実現するための重要なステップです。自己実現のために少しでも力になればたら、きっかけの一つにでもなれたら幸いです。

理事 高橋佳佑